

# [ 清水建設 ] ( 1803 ) 企業分析レポート | 作成日 : 2026年04月11日

## 【直近5年の業績推移】

| 決算期      | 売上高<br>(百万円) | 営業益<br>(百万円) | 経常益<br>(百万円) | EPS<br>(円) | 配当金<br>(円) | 寸評      |
|----------|--------------|--------------|--------------|------------|------------|---------|
| 2022.03  | 1,482,961.0  | 45,145.0     | 50,419.0     | 64.1       | 23.0       | 利益水準は堅調 |
| 2023.03  | 1,933,814.0  | 54,647.0     | 56,546.0     | 66.3       | 21.0       | 売上拡大が進展 |
| 2024.03  | 2,005,518.0  | -24,685.0    | -19,834.0    | 23.6       | 20.0       | 採算悪化で赤字 |
| 2025.03  | 1,944,360.0  | 71,030.0     | 71,664.0     | 94.8       | 38.0       | 収益力が急回復 |
| 2026.03予 | 2,010,000.0  | 110,000.0    | 111,000.0    | 162.0      | 65.0       | 利益成長を計画 |

## 【財務・キャッシュフロー概要】

| 決算期       | 営業CF<br>(百万円) | 投資CF<br>(百万円) | 財務CF<br>(百万円) | 現金残高<br>(百万円) | 自己資本比率<br>(%) |
|-----------|---------------|---------------|---------------|---------------|---------------|
| 2023.03   | 83,842.0      | -52,434.0     | 65,635.0      | 386,750.0     | 34.8          |
| 2024.03   | -21,253.0     | -5,358.0      | -23,972.0     | 339,240.0     | 35.0          |
| 2025.03   | 159,094.0     | 7,813.0       | -71,102.0     | 438,144.0     | 34.1          |
| 2025.12Q3 |               |               |               |               | 34.9          |

## 【財務コメント】

2024.03は営業CFがマイナスとなり収益悪化の影響が表れたが、2025.03は営業CF159,094百万円まで大きく改善し、現金残高も438,144百万円へ回復した。自己資本比率は34%台で推移しており、財務基盤は維持されている一方、採算変動の大きさには注意が必要だ。

## 【会社概要】

清水建設は1804年創業の総合建設大手で、本社は東京都中央区京橋に置く。建築・土木を中核に、開発・不動産、エンジニアリング、グリーンエネルギーなど周辺領域へも展開している。2025年3月末時点の単体従業員数は11,163人、連結売上高は19,443億円で、国内外の大型建築、土木、都市開発案件を担う事業基盤を持つ。

## 【歴史】

同社は越中富山の大名だった初代清水喜助が、1804年に江戸・神田鍛冶町で創業したことに始まる。創業以来、「誠心誠意、心を込めて仕事に取り組む」ことを重んじながら事業領域を拡大してきた。現在は220年超の事業蓄積を背景に、伝統的な建設請負に加え、都市開発やインフラ運営も含む総合力を強みにする企業へ発展している。

## 【立ち位置】

国内ゼネコンの中でも、超高層ビル、大型再開発、土木インフラに加え、開発・不動産やグリーンエネルギー領域を持つ点が特徴だ。建設単体の受注競争だけでなく、施工後の運営や資産活用まで視野を広げた事業構成を取りつつある。足元では建設市況の変動を受けやすい一方、都市・エネルギー・インフラ更新の長期需要を取り込みやすい位置にいる。

## 【見解】

中長期的には、清水建設はGX・都市再開発・インフラ更新といった長期テーマの中核に位置しており、受注だけでなく運営領域への展開によって収益構造の変化が進む可能性がある。一方で、建設業特有の採算変動や資材価格・人件費の影響を受けやすく、短期の業績の振れ幅が大きくなる点には注意が必要だ。

【株価・市場情報】（2026年04月10日時点）

| 株価(円)   | PER(倍) | PBR(倍) | 配当利回り(%) | 信用倍率(倍) | 時価総額(億円) |
|---------|--------|--------|----------|---------|----------|
| 2,893.0 | 17.8   | 2.19   | 2.25     | 1.01    | 20,733.0 |

【同業他社比較】

| 銘柄名  | 株価(円)    | PER(倍) | PBR(倍) | 時価総額(億円) | 特徴   |
|------|----------|--------|--------|----------|--|
| 清水建設 | 2,893.0  | 17.80  | 2.19   | 20,733.0 | 1804年創業の総合建設大手。建築・土木を軸に開発・不動産、GX、インフラ運営など周辺領域へも展開。 |
| 鹿島   | 6,202.0  | 17.00  | 2.17   | 32,800.0 | 超高層建築や原発関連など技術力に強みを持つ総合建設大手。国内外で不動産開発も積極的に展開。      |
| 大成建設 | 16,405.0 | 16.01  | 3.10   | 26,800.0 | 非同族系ゼネコンで市街地再開発に強み。国内事業を中心に展開し、高い施工実績を誇る。          |
| 大林組  | 3,793.0  | 15.34  | 2.18   | 26,200.0 | 関西地盤の大手ゼネコン。都市開発と並行して再生可能エネルギーなど発電関連事業を強化中。        |
| 五洋建設 | 1,748.0  | 14.92  | 2.57   | 4,999.0  | 海上土木最大手。国内の港湾工事や海外の大型インフラ案件に強みを持ち、独自の地位を築く。        |

【投資成功シナリオ】

建設業の枠を超えたインフラ運営型ビジネスへの転換が進み、ストック型収益の比率が高まることで評価軸が変化する展開が想定される。特にGXや都市再開発といった長期テーマの進展に伴い、受注残の積み上がりと収益性改善が継続すれば、安定的なキャッシュフロー創出企業として市場の評価が見直される可能性がある。また、大型プロジェクトの利益寄与が顕在化することで、業績成長と株価の連動性が高まる展開も考えられる。

【投資失敗シナリオ】

資材価格や人件費の高騰が収益を圧迫し、採算悪化が再び発生する場合、業績の不安定さが評価の重しとなる可能性がある。また、大型プロジェクトにおけるコスト超過や工期遅延が発生した場合、利益の毀損につながるリスクもある。さらに、インフラ運営型ビジネスへの転換が想定通り進まず、従来型の受注依存構造に留まる場合、長期的な成長ストーリーが弱まり、市場評価が伸び悩む展開も想定される。

【メモ】

足元は業績回復局面にあり、出来高増加とボラティリティ上昇が確認される。中長期ではGX・都市再開発との連動が焦点となるが、短期は採算動向と受注環境の変化を注視する必要がある。